



水戸ユネスコだより

2025年 (2025年3月15日 発行)

編集・発行：水戸ユネスコ協会 (Mito UNESCO Association)

事務局：〒310-0012 水戸市城東 4-5-4

ホームページ：<https://mtunesco.jp/> (右下にQRコードあり)

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。



「Mito UNESCO プラネタリー塾」がスタート！

水戸ユネスコ協会 会長 中庭 陽子

今年度、これからの時代を担う若い世代を主な対象として「Mito UNESCO プラネタリー塾」を立ち上げ、幸いにも、参加者の皆様から好評を得て、6回の講座を終了することができました。ご協力をいただきました関係の皆様へ感謝申し上げます。今、世界では、気候変動により、洪水・干ばつ・山火事が頻繁に発生し、また、戦争や戦闘が収束せず、多くの命が犠牲になり、美しい街や自然が破壊されています。プラネタリー塾の講座を通して、「平和で持続可能な社会」の実現のために、多様な文化の理解・地球環境の保持・人への尊厳・世界の平和の大切さを実感していただけましたらうれしいことです。

6回すべての講座に参加された中学2年生に修了証書を授与し、プラネタリー塾修了生第1号が誕生しました。「僕が大人になる将来、僕らの時代のために、今僕ができることを見つけたい。進路を考える上で貴重な経験ができた」という感想を頂き、私たちの大きな喜びとなっています。来年度も皆様のご参加をお待ちしています。

2024年度 関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 茨城

2024年10月12日(土)、つくば国際大学にて「関東ブロック・ユネスコ活動研究会」が開催されました。林大会実行委員長(水戸ユ)および稲本県ユ連絡協議会会長(土浦ユ)のもと、県内各ユ協はおよそ2年前から準備を重ねてきました。「進めよう！平和を目指して、SDGsは自分ごとに、いざアクション!!」というテーマを掲げた本大会には、230名以上が参加されました。オープニングでは土浦市立土浦第二小学校児童の美しい歌声が響き、その後の開会式では、児童と参加者が「手に手をとって」を合唱し、感動的な幕開けとなりました。国連でSDGsの策定に携わられた富田敬子氏(常磐大学・常磐短期大学学長)の記念講演では、「残された6年の課題」としてステークホルダー間のパートナーシップ強化や成功事例の共有の必要性、そしてESD(サステナビリティ教育)の促進によって若者が社会貢献への意識・行動を高めることの重要性が指摘されました。3つの分科会―「SDGs活動と民間ユネスコの役割」「平和活動・世界寺子屋運動と国際交流」「世界遺産・未来遺産」―のいずれにおいても、中身の濃い発表や質疑応答が行なわれました。全体を通して、深い学びや明日のユネスコ活動への刺激を得ることができたと思います。(工藤 駿)



Mito UNESCO プラネタリー塾

<実施のねらい>

今年度、水戸ユネスコ協会は未来を担う中高生を主な対象として、平和で持続可能な世界の構築を自分ごととして考えることを目的とした「Mito UNESCO プラネタリー塾」を企画・実施しました。6回の連続講義は、異文化理解・国際交流・国際平和・地球環境保護・地域文化遺産保護・SDGs 活動という切り口で構成されています。会員の積極的な広報によって、のべ250名以上の参加を得ることができました。

◎ 第1回 異文化理解：英語で国際交流 ―異文化講話とガーナ音楽体験―

本会会員のガーナ出身パーコフィ・エイキンス氏による異文化講話とガーナ音楽体験を通し、「違い」を乗り越える相互努力と、ともに生きることで広がる世界の喜びを知る機会となりました。パーコフィ氏が参加者一人ひとりの眼を見て握手をしながら英語で1分間挨拶を交わすことから和やかに交流が始まり、パーコフィ氏は「日本が東の端にある世界地図」を指しながら、日本に来るまでに訪れた国々の挨拶の仕方や習慣などで戸惑ったり驚いたりしたことを紹介されました。

後半は駐日ガーナ大使館から伝統衣装を身につけた職員も参加しパーコフィ氏の民族衣装と共に華やかな演出があったほか、ボルタ地方の女性農家と先住民コミュニティーによって生産管理される「カワモカ」コーヒー、ドライフルーツ・チョコレート、カラフルな織物や石鹸等々が紹介され、賑やかに試飲・試食が行なわれました。英語はもちろん、五感を使って楽しく学べる機会となりました。



◎ 第2回 国際平和学習 ―世界はいま：広げよう平和の心 講演とワークショップ―

本講座では、(公社)日本ユネスコ協会連盟 参与(元事務局長)川上千春氏を講師に迎え、ユネスコ憲章と民間ユネスコ活動についての紹介が行われました。講演では、ユネスコ憲章の意義について「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という理念が述べられました。また、ユネスコの教育、科学、文化分野での国際協力活動や支援事業の具体例も紹介され、活動の重要性について理解を深めました。さらに、皆川末子氏による「平和を願う布絵」の鑑賞も行われ、参加者は美しい作品に込められた平和への願いを感じながら、改めて平和の重要性を考える時間をもちました。

◎ 第3回 地域の文化遺産とは ―ひと・まちが輝く未来の設計―

本会会員で建築家の横須賀満夫氏より、人の流れを生み出すパーク&ウォークの思想で設計された水戸市民会館、さらに櫓づくりや西側のガラス面の持つ意味などについて設計者の思いと周辺の開発への期待が語られました。さらに、切妻屋根の連なりや旧園舎のレンガの再利用などで歴史を紡ぐ少友幼稚園園舎、国道を走る車からの視線を意識した JAF 茨城支部のオフィス、水戸の祭りを期待させる広場スペースのあるアダストリア本店などの設計が紹介され、ひと・まちが輝く未来の創造を感じる講演でした。

後半は櫓広場、特別室、展示室、料理室、スタジオ室などを、水戸市民会館運営事務局や横須賀満夫建築設計事務所の方から説明を受けながら見学させていただきました。

◎ 第4回 環境学習会 ―これからの地球を考えよう―

茨城大学前学長で名誉教授、地球・地域環境共創機構特命教授の三村信男氏による、ワークショップ中心の学習会。世界各地で気候変動の影響等を調査してきたご経験に基づき、地球温暖化をめぐる世界の諸問題や最新の研究成果を示していただきました。また、参加者が「国連の気候変動対策担当者」「日本の環境省の担当者」「水戸市の市民」「途上国の住民」のグループに分かれ、それぞれの立場でそれぞれの希望や考えを述べるワークショップを行ないました。知識を身に付けるばかりでなく、こうして多様なステークホルダーの考え方の違いに気付く学びの機会になりました。最後に、環境保全に向けた中学生参加者の決意表明を聞くことができ、会場は感動と希望に包まれました。なお、今回は2024年9月29日開催予定でしたが、都合により2025年2月2日に変更しています。



◎ 第5回 SDGs 活動 ―梅染め体験―

第一部として、まず常磐大学准教授の小関一也氏による講演「SDGs と水戸の梅染め ～『地域』と『世界』をつなぐ学生プロジェクト～」が開催されました。講演では、SDGs の特徴や基本を確認し、私たちに最も伝えたいメッセージについて考えました。また、SDGs の達成状況や地球が直面する課題について、クイズを通じて学びました。さらに、常磐大学で取り組まれている「梅染め・組紐プロジェクト」が紹介され、水戸の伝統技術である梅染めが、地域の活性化だけでなく、世界へと広がる可能性について説明されました。

続く第二部では、梅染め体験が行われました。映像資料「梅染めとSDGs について」視聴後、会員4名と智学館中等教育学校生徒4名の指導・補助のもと、実際に梅染めを体験しました。まず、梅染めの技法について説明を受けた後、ハンカチの絞り染めの準備として輪ゴム、割り箸、ビー玉を使った模様作りを行いました。続いて、梅の染色液を使用した染色と媒染を行いました。参加者からは「伝統技術を通して地域と世界のつながりを実感した」などの感想が寄せられました。梅染めの魅力だけでなく、地域資源を活用した持続可能な取り組みの意義について深く学ぶことができる貴重な時間となりました。

◎ 第6回 茶の発祥から世界の茶の歴史をたどる ―中国からイギリスまで―

茶の発祥の地である中国の祁門（キーモン）紅茶やインドのダージリン紅茶を飲みながら、茶の文化の話、茶の原木（茶樹）について、茶葉の種、そして紅茶のできるまでの歴史についてお話を頂きました。大航海時代に東インド会社により航路でのヨーロッパへの茶の伝播、そしてイギリスから世界へと伝播していく歴史の流れや、中国の茶葉農家との交流の話等、これまでの幅広い経験に裏打ちされたお話は心に響くものがあり、奥深い茶の世界へと引き込まれました。最後に、イギリスの貴族たちの習慣として飲食されていたと言われる本格的なアフタヌーン・ティーを頂きながら交流をはかりました。エリザベス女王が好んだというケーキやサンドウィッチ、イギリスのハー・マジェスティ・ブレンド茶（女王陛下のブレンド）を頂きながら、素敵な空間の中で深い交流ができました。



環境フェアへの出展について

6月22日(土)に水戸市民会館にて開催された、水戸市環境フェア2024に出展しました。市民会館での開催は2回目で、今年はファーマーズマーケットや「みちあそび」などのイベントとも同時開催でした。水戸ユネスコ協会のブースのテーマは、「くらべてみよう昔と今～ライフスタイルの変化から考える環境問題～」でした。水戸ユネスコ協会の活動内容の展示をしたところ、来客から梅染めや地域遺産についての質問を多数頂きました。また、主に親子連れを対象に、環境学習絵本を利用した昔と今の違いについての話し合いを行ったところ、「おじいさん、おばあさんの家に行った時の話」や「古いものについて、よく知らない、見たことない」などといったご意見を頂きました。当協会の活動をPRできて良かったです。(館山 佳央)

梅染め活動

昨年10月20日(日)に行われた「第5回 Mito UNESCO プラネタリー塾 SDGs活動 梅染め体験」の後半では、ハンカチの梅染めをしました。前半では常磐大学小関先生がSDGsと学生プロジェクトについて講演されました。プロジェクトでは、剪定した梅の枝を煮出して絹糸を染め、その糸で組紐作りをしています。一昨年の春から小関先生と学生がフィリピン・ネグロス島を訪問し、現地の生産者の方に組紐を教えており、水戸の梅染めとフィリピンの草木染めを合わせてフェアトレード商品を作っています。(鈴木 康夫)

第25回水戸地区絵画展「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」

水戸市内の小・中学校のご協力により水戸地区絵画展は12月17日(火)～25日(水)にかけて常陽銀行本店ロビーにおいて開催されました。市内の歴史ある文化財や学校施設・自然環境など身の回りの自然や風景を大切にしたいという思いが伝わる作品が多く寄せられました。自分たちが住む町のすばらしさと愛着が多くの作品から伝わってきました。身近な題材を中心に、町の環境を大切に、現在から未来へと引き継いでいく気持ちを育てて、持続可能な社会をつくるというSDGsの趣旨に合った作品が多かったと思います。また、絵画展では、各作品に「作者の一言」と「審査講評」を添えて、展示させていただきました。(高木 昌宏)



「13th こみっとフェスティバル」に参加して

「13th こみっとフェスティバル」が2月15日(土)、16日(日)に、イオンモール水戸内原で開催されました。ステージ発表・動画放映・各ブース(24団体)での活動紹介等大盛況でした。本協会では今年度の活動である「プラネタリー塾」の活動報告書の配布と水戸工業高校の「梅染め製品の販売」をしました。高校からは先生と生徒3人が参加し、梅染めから製品の製作までをパネルを使って説明し、SDGsと環境教育につながる「草木染」の活動は大好評でした。このイベントへの参加は多くのNPO法人や種々の支援活動団体との交流により今後の協会の活動の活性化につながると感じました。(高木 昌宏)

